

# 令和2年度第4回鹿児島市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定・管理委員会会議概要

- 1 日 時 令和2年11月26日(木) 14時00分～15時00分
- 2 場 所 市民福祉プラザ5階 大会議室
- 3 出席者 鹿児島市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定・管理委員会委員17名
- 4 会次第
  - (1) 開会
  - (2) 議事
    - ①第8期鹿児島市高齢者保健福祉・介護保険事業計画素案に係るパブリックコメント手続の実施結果について
    - ②サービスの見込量及び目標量について
  - (3) 閉会
- 5 審議の概要

## ①第8期鹿児島市高齢者保健福祉・介護保険事業計画素案に係るパブリックコメント手続の実施結果について

- ・パブリックコメント手続きの意見提出者が23人というのはあまりにも少なすぎるのではないかと。
- ・介護職員の報酬のことなどの意見があるが、すでに盛り込み済との回答になっているものも多い。一般の人がこの計画に意見を提出するのは、相当にハードルが高いのではないかと印象がある。
- ・計画素案の理解を深めるために、勉強会を開くことも一つの方法だと思う。  
⇒パブリックコメントについては、市の施設のほか関係団体、介護施設など幅広く多くの施設に資料を配置して、意見を募集したところであるが、結果として、23人から119件の意見にとどまったものである。  
今後もしろいろな場面で意見を聞く機会もあると思うので、施策に反映させていきたい。

## ②サービスの見込量及び目標量について

- ・施設サービスの見込量の増減の推移の根拠について。また、高齢化が進むのに、養護老人ホームや軽費老人ホームの目標量が増加しない理由について  
⇒見込量については、年齢と要介護度に応じた区分での推計となっている。団塊の世代が75歳以上になることなどにより、介護老人保健施設から介護老人福祉施設に移るような見込量となっている。介護医療院については、施設数の伸びが鈍化していることなどから、このような見込量となっている。介護医療型

医療施設については、今後介護医療院への移行が進むものとして、見込んでいるところである。

福祉サービスの目標量については、全体の定員に対して、入所率が低い状況にあるので、新たな整備は必要ないと考えている。有料老人ホームなどの代替サービスが増えてきていることが要因と考えている。

- ・ 認知症サポーター養成数について、2年度の実績から3年度以降の見込の増の理由はどのようなものか。また、同様に認知症等見守りメイト養成数についても教えていただきたい。また、現在の認知症サポーター数等の累計の人数は何人か。認知度が低い現状をどのように改善していくのか。

⇒ 2年度の実績が低いのは、新型コロナウイルスの影響で養成講座が開催できなかったことが原因である。元年度以前は、毎年3～4千人で推移しており、3年度以降の数字は以前の状態に戻ることを想定している。元年度末の認知症サポーターの累計は48,929人、見守りメイトは700人となっている。周知広報については、様々な機会を捉えて行っているが、今後も地域包括支援センター等を活用しながら、積極的に行いたい。